

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成13年(2001)大会号



阿賀野川・早出川の合流点

東京同窓会第44会大会にあたり

大会実行委員長 伊藤 勇五（旧中33）



松高東京同窓会が、本年、第44回目の大会を迎えましたことは大変喜ばしく、かつ誇りに思っております。東京同窓会も先輩諸氏の長年に渡る情熱と努力により、二十一世紀に受け継がれましたが、時代の流れと共に必然的に旧制中学、高女出身の方々が少なくなっており、誠に心強く思っております。毎年、大勢の人達のご出席を頂き、盛大な同窓会として内外から評価を得ており、これも偏に会員の皆様のご支援ご協力の賜ものと厚く御礼申し上げます。また大会の開催・運営にあたられた幹事の皆さんのご協力に感謝いたしております。

故郷や母校を愛し旧友との再会に心ときめかせ、現実から離れ若き日の感触を取り戻すことの出来るこの大会が、私達に生きる勇気と喜びを与え生活に潤いをもたらす一助となれば幸いと思っております。

激動と反省の二十世紀から、創造と躍進の新世紀を迎えました。松高東京同窓会も今世紀こそ私達の目標である「広げよう同窓会の輪」の充実に更なる努力を重ねて参らねばと考えております。二十一世紀は、高校二桁卒の人達の若き力の結集こそ、伝統と実績を誇る東京同窓会の発展に寄与するものと期待いたしております。

幾年を経ても私達は「臥龍が丘は緑なり」の中に松城の学び舎が鮮やかに蘇って来る同窓生同志です。今年も母校・故郷に思いを馳せながら、大いに盛り上がる大会になるものと確信しております。

おわりに、東京同窓会の益々の隆盛を期待し、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

東京同窓会 第44回大会 プログラム

日時 平成13年6月2日(土) 午後2時 会場 ニューオータニ・イン・トーキョー

◎第一部 総会

- | | |
|---------------------|-------------|
| ① 大会実行委員長挨拶 | 委員長 伊藤 勇五 |
| ② 東京同窓会長挨拶 | 会長 佐伯 益一 |
| ③ 同窓会長挨拶 | 同窓会長 伊藤 淳一 |
| ④ 学校長挨拶 | 校長 杉原 雅昭 |
| ⑤ 平成12年度・経過報告 | 総務委員長 斉藤 和男 |
| ⑥ 平成12年度・会計報告 | 財務委員長 鈴木多喜男 |
| ⑦ 会計監査報告 | 監事 塚田 勝 |
| ☆ 司会・進行 | 間藤 謙一、田代 信雄 |

◎第二部 懇親会

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 乾杯 | 出席者の中から |
| ② アトラクション | 演歌歌手 杉 幸子 |
| ③ 抽選会 | 篠川 恒夫、佐久間英輔ほか幹事 |
| ④ 校歌・応援歌 | 全 員 |
| ⑤ 手締め | 東京同窓会長 |
| ⑥ 閉会挨拶 | 副会長 岡本 和子 |
| ☆ 司会・進行 | 石黒 四郎、近藤 燦子 |

{表紙について} 阿賀野川と早出川の合流点

撮影・八木年秋氏（大正8年生れ、五泉市在住）県展無鑑査二科展写真部新潟支部長代理、五泉市文化協会副会長
会報N019…田植え、N022…白山と白鳥、N023…愛宕神社も氏の作品です。

阿賀野川と早出川の合流点付近は広い川幅を有し、雪解け水の滔々と流れる様は
将に大河の風貌を見せる。遠浅の此の地は、川蟹の漁が盛んに行われる。
朝の漁を終えた、幾艘もの小舟が繫留されていた。

一年を終えて

新潟県立村松高等学校長
杉原 雅昭



東京同窓会の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。昨年の東京同窓会では大変お世話になり心から感謝しております。お陰様で楽しく過ごさせていただきました。同時に、皆様方が母校をこよなく愛しながら「ふるさと」を離れて活躍されていることに感動しました。そして、母校の一層の発展のために微力ながらも精一杯尽くさねばならないという感を深めた次第です。

今年もお世話になりますが、よろしくお願いいたします。

あれから、早や1年過ぎましたが、当地域は自然環境に恵まれ素直な生徒諸君に囲まれて、今更ながら山紫水明の地を実感しているところです。今冬は例年になく積雪が多く4月最初の日曜日に開かれる白山の山開きには3メートル近くもあったと聞いております。今(4月中旬)はまだ一面真っ白で、朝、新発田から安田の大日ガ原の満開の桜のトンネルをくぐりながら、その向こう正面に白山が白く輝きながら姿よく雄々しく目の前に聳え誰の目にもその姿にハッとさせられます。正面から仰ぐ白山とは違った趣を感じさせられます。安田からは菅名岳が屹立し、阿賀野川、巢本を越えて三宮に近い早出川橋から仰ぐ早出川の輝く早瀬を前景に入れた白山は実に一幅の絵になっておりいつも通るのが楽しみです。

また、臥龍、愛宕など幾つもの丘陵に囲まれ城下の名残を残しながら、落ち着いた町並みなど皆様方の「ふるさと」の素晴らしさを四季折々に触れて感激しております。

さて、学校は現在、普通科各学年6学級で、近年の進路の状況は大学・短大への進学率が数年前までは1ケタだったものが以後20%前後までアップしました。(専門学校などへの進学が多く、それを含めれば50%を超えるようになりました)。一方、就職者は減少傾向にあり3ケタから2ケタになってきています。

今春の卒業生は171名で例年より少なかったのですが、その進路状況は大学は私大に8名、短大は県立女子短大2名をはじめ15名、専門学校は70名、就職には76名、家業が2名でした。

大学・短大の進学率は13.5%(専門学校を含めれば54.4%)で残念ながらダウンしました。これは入学当初より特に大学等の進学希望者が大変少なかったことによります。現3年生はより多い希望者がいますので全力をあげて達成させたいと思っています。

次に部活動の主な結果を紹介します。陸上部は男子4名、女子2名が県大会に出場し、1名が男子砲丸投げで3位になり北信越大会に出場、県高校総体駅伝も健闘しました。野球は夏の大会は惜しくも1回戦で敗れましたが、秋の大会は2回戦まで進みました。若いチームでしたので今年は期待しているところです。剣道部は下越大

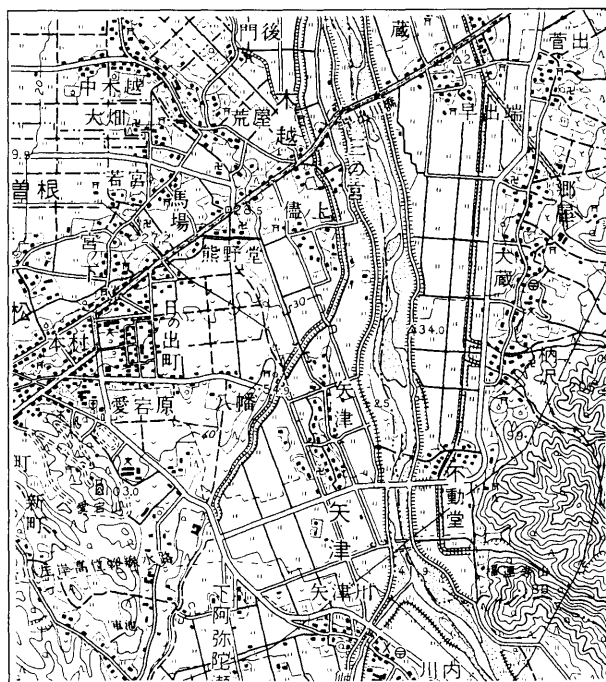
会で準優勝、全国北信越予選を兼ねたBSN杯でベスト8に入るなど大活躍で今年は更に期待しています。

サッカー部も下越大会で3位入賞し安定した力を発揮しています。スキー部では男子大回転で県大会に出場しました。書道部は県競書大会をはじめ各種大会で特選、準特選、金賞など多数の入賞を果たしました。また伝統あるカメラ部も県高校総合文化祭で優秀賞の荣誉に輝き今年1名が全国大会に出場予定です。吹奏楽部は県アンサンブルコンテストで金管五重奏で銅賞を獲得しました。全体として活動が活発になり、成果も上がっていることを報告申し上げます。

今年度230名の新入生を迎えました。ご承知のように高校は教育改革の真っ最中であり、総合高校、単位制高校、特色ある学科・コースなどが設置されてきています。加えて少子化に伴う生徒減少期を迎え、高校の整備計画が19年度を目処に進められています。

このような状況の中で本校の在り方や特色づくりなど大変難しい状況を迎えている訳ですが、皆様方の母校発展のために一層努力してゆきたいと思っています。また今年は創立90周年を迎えますが、皆様と一緒に成功に向けて取り組んでゆきたいと思っています。

今後ともどうかよろしくお願いいたします。



国土地理院・5万分1地形図「新津」
…早出川橋～川内、西に愛宕山…

ありがとうございました

① 平成12年度・会費納入された方（敬称略）

◎旧中の部（44名）

相田和平、相田幸四郎、相田忠亮、伊藤秀男、伊藤勇五、五十嵐一郎、市川薫平、伊藤達郎、熊倉 悟、亀嶋 謙、北沢卓夫、笠原健二郎、黒井伊作、小島真一、佐伯益一、佐久間精一、佐藤豊夫、斉藤和男、斉藤朝之、酒井 忠、斉藤誠七郎、坂井太郎、坂上庸蔵、式場俊三、團 順一、千代國一、寺田徳隣、成海正弘、奈良泰夫、西山莊平、芳賀健一、福原平八郎、藤原良造、松尾 貢、水尾広吉、宮本 昇、武藤三郎、矢部五郎、山口三郎、横松宏平、吉田正平、吉田公男、芳原英男、渡辺文夫

◎高校男子の部（112名）

青木 猛、浅井昭男、新井康夫、青木敏和、五十嵐 健、伊藤勤吾、伊藤 馥、伊藤和賢、石本芳雄、石黒四郎、稲毛越郎、石川 滋、今井孝宏、大島惣四郎、大橋貞夫、岡村嘉志、大西範孝、小笠原一憲、小黒利雄、大橋秀雄、笠原大四郎、笠原 久、笠原静夫、金子鶴男、亀山知明、川合敏男、加藤清治、川村莞爾、神田弘毅、杵渕政海、雲村俊徳、熊倉富次、剣持常泰、小日山芳栄、小池生夫、小柳 実、近藤英洋、近藤洋輝、小林末吉、佐久間英輔、佐藤良平、佐藤匡秀、佐藤 赳、酒井俊昭、佐々木秀和、篠川恒夫、坂上卓夫、斉藤正義、佐藤 治、沢井 昭、沢出赳允、新保 優、下野文幹、鈴木健司、鈴木多喜男、鈴木忠雄、鈴木輝雄、瀬倉 薫、瀬倉武志、関塚 豪、関谷雄二、田代信雄、高岡雄三、高久貞夫、高地 彰、高山幹雄、高岡英治、塚田 勝、弦巻 等、土田 猛、坪谷次郎、鶴巻廬三、弦巻一郎、鶴巻 浩、寺山和夫、中川善隆、中村雅臣、中山 健、中川四郎、二宮文三、根本俊夫、長谷川宏一、長谷川五郎、長谷川洋大、広田達衛、真島節郎、増田訓英、松田 博、松田輝夫、松尾真一郎、松尾正春、松尾 了、間藤謙一、松井 孝、松尾保司、丸山貞次、宮沢正由、武藤正昭、村川五郎、村川恭平、目黒義二、八木又一郎、梁取正通、梁取錦二、山崎輝雄、山田一男、吉井 清、米山正祠、山田俊治、柳川芳彦、山崎豊吉、渡辺八郎

◎旧高女の部（13名）

石井洋子、一氏愛子、内田道子、岡本和子、大橋也子、小林早月、佐藤玲子、佐藤治子、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ、藤崎トヨ、堀 和子

◎高校女子の部（50名）

安達繁子、飯利 幸、市川 俊、小沢幸子、緒形美恵子、緒方康子、大嶋エミ、岡部ユキ、大橋マツエ、加藤久子、片柳ムツ、神田正子、木村孝子、久我マキ、熊倉悦子、桑原トム、小島典子、近藤燦子、佐藤八重、雑賀和子、斉藤英子、佐々木恵美、佐久間順子、佐野美枝子、佐藤綾子、島田淑子、白石キヨ、治田レイ子、鈴木則子、高尾佳子、田中富子、田川百合子、寺山征子、出口テル、土井トシ、高浜つる子、徳永道子、中川米子、中島和子、深見洋子、波多ミサエ、真水道子、升本久子、松本知子、松尾恵子、宮腰ヨイ、向山律子、山西愈佐子、横溝田鶴、渡辺厚子

○男子＝156名 ○女子＝63名 ◎合計＝219名
金額＝657,000円

（平成11年度分、伊藤馥、松田輝夫、岡部ユキ）

② 平成12年度・寄付された方（敬称略）

◎男子の部（38名）金額＝128,000円

10,000円 千代國一、村山家司
7,000円 亀嶋 謙、川合敏男、佐藤豊夫、式場俊三、塚田 勝、山崎輝雄
6,000円 雲村俊徳
3,000円 瀬倉 薫、西山莊平
2,000円 伊藤秀男、笠原静夫、亀山知明、熊倉富次、黒井伊作、小池生夫、斉藤正義、佐伯益一、佐藤良平、沢出赳允、下野文幹、鈴木健司、中川四郎、二宮文三、武藤三郎、武藤正昭、梁取正通、山口三郎、横松宏平、吉田正平、篠川恒夫、吉田公男、芳原英男、渡辺文男、小日向芳栄、伊藤勇五、吉井 清

◎女子の部（10名）金額＝29,000円

5,000円 岡部ユキ
4,000円 木村孝子、深見洋子、山西愈佐子
2,000円 緒方康子、小島典子、新保清子、土井トシ、真水道子、横溝田鶴

◎合計（48名）金額＝157,000円



平成 1 2 年度会計収支決算書

(平成12年4月1日より平成13年3月31日まで)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位: 円)	支出の部 (単位: 円)
特別会計 第43回大会収入 (No.30既報) 866,000	特別会計 第43回大会支出 (No.30既報) 791,872
一般会計 ① 第43回大会収入残 82,128 (No.30既報) 74,128 同上懇親会費記入洩 8,000 ② 平成12年度 会費 645,000 男子 153名 459,000 女子 62名 186,000 計 215名 @3,000 ③ 平成11年度 会費 9,000 男子 2名 女子 1名 計 3名 @3,000 ④ 寄付金 157,000 男子 38名 128,000 女子 10名 29,000 計 48名 ⑤ 受取利子(13:4/1 現在) 1,265 ⑥ 平成12年度会費、男子3名、女子1名の計4名 (12,000) は前年度前納として11年度繰越金に 含まれているので12年度納入者は219名となる	一般会計 ① 会議費(常任幹事会、幹事会) 185,366 ② 大会会場下見費(大会費洩) 18,413 ③ 通信費送料 86,757 通信費 28,040 一般送料 3,260 印刷費(宛名紙共) 25,532 封筒印刷費 29,925 ④ 会報発行費(年2回) 474,925 編集会議費 96,465 No.29印刷費 131,775 同 送料 46,720 No.30印刷費 140,175 同 送料 59,790 ⑤ 同窓会本部総会参加費 34,830 ⑥ 県人会報購入費(送料共) 14,358 ⑦ 慶弔費(内田前校長香典送料共) 20,520 ⑧ 交通費 2,900 ⑨ 謝礼(精文者佐野氏) 5,264 ⑩ 払込手数料 10,510 ⑪ 雑費(事務消耗品他) 7,709
計 894,393	計 (収支差引残 32,841) 861,552
平成11年度よりの繰越金 1,646,590	平成13年度への繰越金 1,679,431
※平成13年度分会費前納 男子3名分及び立替金は は預かり金として13年度会計で処理する	内訳 郵 貯 1,634,029 現金 35,402 ※ 立替金 10,000
合 計 2,540,983	合 計 2,540,983

上記のとおり報告いたします。

平成13年4月21日

会 長

佐 伯 益 一 ㊟

財務委員長

鈴 木 多喜男 ㊟

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。

平成13年4月21日

会計監査

塚 田 勝 ㊟

〃

佐 藤 玲 子 ㊟



平成12年度 東京同窓会の動き

平成12年

- 4月 8日 会報編集会議・常任幹事会、大会実行委員会、幹事会（県人会館）
22日 常任幹事会、大会案内状発送幹事会（県人会館）
- 5月 2日 会報29号原稿、印刷所渡す
17日 会報29号、校正作業
- 6月 3日 東京同窓会大会（日比谷）
- 7月 9日 常任幹事会・会報発送（県人会館）
幹事会（大会決算報告・反省会）
- 8月12日 同窓会総会（村松・新瀧）東京同窓会より2名参加

9月 2日 会報30号、編集会議（県人会館）

10月28日 会報30号、編集会議（県人会館）

11月 9日 会報30号原稿、印刷所へ渡す
29日 会報30号、校正作業

12月16日 常任幹事会・会報発送（県人会館）
幹事会（県人会館）

平成13年

2月 3日 会報31号、編集会議（県人会館）

3月 3日 常任幹事会（県人会館）

2001年 くどき節



県人会友誼団体から会報新年号原稿執筆依頼の通知を頂いたが、些か旧聞（文）に属するが若干、書き改めた点もある小論である。

題材は自由、然も新世紀への希望のもてる明るい内容でとの注文である。然し今の御時世になんで明るい話題などある筈があろうか。平成12年は大地、政局ともに大いに揺れに揺れた年である。毎日の新聞は犯罪報道紙と化し、また政界では徹々たる発言のあげ足取りに終始しており、党利党略が先行し外に対しては莫大な援助、融資で大金をばらまき国民は重税に喘ぐ。

一党独裁の国から招きがあれば喜々として訪れる。一体何のために？ そして何を話してくるのか？ 果たして政府、政治家は国家国民のことを真剣に考えているのかと疑わざるを得ない状態である。

明るいニュースと云えばノーベル賞受賞と、シドニーオリンピック多入賞のことぐらいか。だが私には直接関係の無いこと。華々しい昨年のオリンピック報道の陰に

世界各地で過激な暴動や悲惨な殺戮が起きている事実を忘れてはならぬ。オリンピックは国家を背景とした力と力の競い合いである。その結果がメダルであり国威宣揚の場ともなる。外交問題にしてもその通り、外交に力が無ければ相手国から侮られる。更に要求は倍加する。

故に私は21世紀に於ては明るい展望など望むべくもないと考えている。情報技術（IT）の進歩によって更にそれを上回る技術犯罪が増加してゆくことを私は懸念している。新世紀だからといって私には何も期待する所はない。題材が明るい内容とのことであるので以上述べたことを全部、裏返しにして考えれば明るい新世代になると考える。常に云うことだが、国の内外を問わず自分自身を晒け出して、お互いの心を掴み合えば、人生おのずから楽になる筈。いつも「心の中で警鐘を鳴らして居よ」と云いたいのである。「後文省略」

今年も荒れるであろう。（東京鹿瀬会会長・佐伯益一）

お便りの中から

順不同・敬称略

新潟市 須佐 平助（旧中27）

「臥龍が丘は緑なり」30号の巻頭文、母校のため、郷里のためを思って行動している君ゆえに、苦言は説得力がありました。益々のご活躍を祈ります。

“永劫の時の流れのうちにして今新しき世紀始まる”

新潟市 五十嵐喜作（旧中27）

昨年のクラス会はお陰様で楽しかった。また、元気な顔を見る機会を楽しみにしている。会報30号ありがとう。あんまり頭に血をのぼせるなかれ。

厚木市 熊倉 芳枝（旧女19）

会報や写真ありがとうございます。皆さん背を丸め、なかなか意気盛んなご様子。人間、幾つになっても逢えると云うことは貴重なことだと熟々思っております。

我が家では、また心臓がおかしくなり入院の繰り返しになりつゝあります。女房たる私が老にムチうって、エッチラ、エッチラと云うところです。

東京松代会 市川 昭二（新潟県人会会報委員）

「臥龍が丘は緑なり」30号をご恵送いただき、有り難うございました。早速拝読、巻頭論文で、わが佐伯会長さんは言いにくい事をズバズバおっしゃっている。凡人ならニクマレルであろうところを、大勢に人達に慕われているのだから、人徳なんだなあ…と感服致しました。

歌人、千代國一さんが、わが敬愛する岡村三夫さんを鑑識眼のある人だと誉めてくださってるのを嬉しく思いました。将は将を知るということでしょうか。

どの頁をめくっても佐伯会長に出会う、その存在感の大きさに驚いております。「よくぞ飲んだり」ではなくて、程々に飲んで21世紀もエネルギーに活躍下さるよう希っております。松中というと松代中、松之山中と紛らわしいのですが、松高となると小生中四の時、松本高校受験に失敗した苦い思い出があります。

旧制中学は味わいがありましたね。

（後 便）

先般、ある会合で村松高校卒業生の奥様とご一緒でした。旦那は昭和41年（高18回）卒の五十嵐力さん、と言われる方です。この奥様は歌人で詩集など出されています。旦那は五泉ご出身「村松は良い所だ」といつも自慢されている由、そこで松高東京同窓会長の佐伯さんと私は知人だぞとイバッテ言いました「帰って主人に良く言っておきます」と奥様はおっしゃってました。

世田谷区 祖父江 静子

いつもお忙しい中、会報を有り難うございます。いつもの様に先ず佐伯さんの文と顔を探し、その後今回は一水会の部分、絵などの好きな主人に見せて、そこで世田谷在住と言いうのを発見しまして、顔が赤らむ思いで読みました。新潟は、たしかに温もりが有るといつも感じます。

新津支部長 片岡 一郎（旧中19）

この度、東京同窓会々報「臥龍が丘は緑なり」ご恵送賜り有り難く拝読しました。ご活躍、ご努力敬服の外ございません。私ども新津支部は貴会のご活躍に比べ誠に恥ずかしい限りでございます。

90周年記念の募金の件もあり春早々に総会を開き、対応を協議する予定にしております。

小生19回卒で、わが期は十九にちなみ「寿久会」と称し毎年同級会を開き、八十八歳までは続けようと勇ましいことを言っておりますが、皆が億劫になったのか今年（平成12年）は誰も言い出さず終わりました。

本部同窓会副会長 渡辺 照男（旧中31）

「臥龍が丘は緑なり」30号をお送り下さいまして有り難うございました。各方面から原稿を手際良く纏められました。大変なご苦労だったと思います。

ことに会長様の「会報30号を祝う」には考えさせられました。本部の仕事をお手伝いしている一人として、心していかねばならないと思いました。

益々のご発展を念願しております。

K 記（高7回）

村松高校東京同窓会の会報を拝見し、以前、クラス会の写真が掲載されているのを見て、とても嬉しく思った事を思い出しました。あの会報を見たクラスの人達は皆大喜びでした。内容も面白く読ませていただきました。

我々も早や65歳、長寿の心得の一部……

『還暦』 60歳でお迎いの来た時は、ただ今留守と云え

『古希』 70歳でお迎いの来た時は、まだまだ早いと云え

現在この中間点です。その先まで達者で頑張りましょう。

会報のあゆみ(21~30号)

(創刊号~20号は21号に掲載)

- NO21 平成 8年、大会号(表紙…菅名岳)
(1996年)
- ・会報「臥龍が丘は……」の歩み
 - ・一里のグランドピアノ
 - ・栄光の松中竜球部
 - ・私の昔話
 - ・山頭火に寄せて

- NO22 平成 9年、新春号(表紙…白山と白鳥)
(1997年)
- ・戦没少年通信兵の碑
 - ・花すみれ

- NO23 平成 9年、大会号(表紙…愛宕神社)
(1997年)
- ・支部大会40年の重み
 - ・生徒数の減少に思う
 - ・T君を偲ぶ
 - ・戦没少年通信兵の碑を読んで

- NO24 平成10年、新春号(表紙…東京時代祭)
(1998年)
- ・新潟県高校野球熱戦譜より
 - ・磐越自動車道の全線開通

- NO25 平成10年、大会号(表紙…機関車C57)
(1998年)
- ・ふるさと講演会を聞いて
 - ・亀嶋さんの出版本を読んで
 - ・花と緑と石油の里、新津

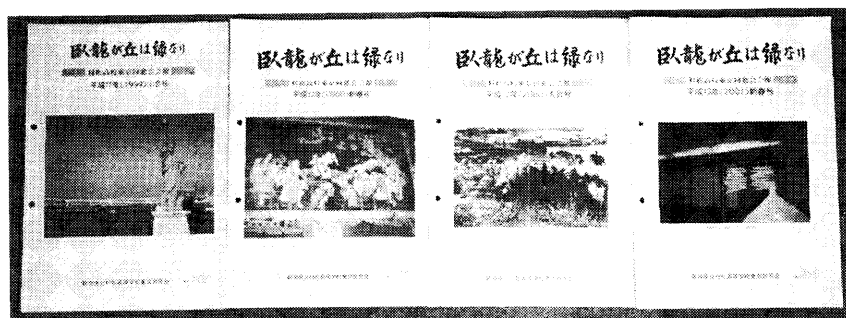
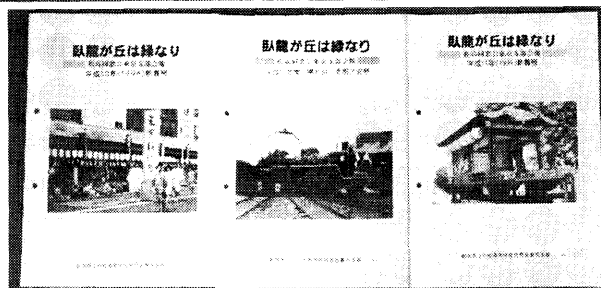
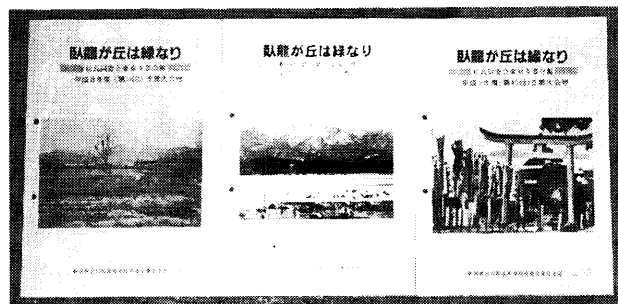
- NO26 平成11年、新春号(表紙…式三番屋台)
(1999年)
- ・任意団体における人物像の条件
 - ・式三番城町屋台
 - ・母校に手持ちの図書を贈ろう

- NO27 平成11年、大会号(表紙…自由の女神像)
(1999年)
- ・歌会始ほか、ことごと
 - ・旧制村松中学の思い出
 - ・東京同窓会会則
 - ・メダカの里、メダカの味
 - ・忠犬タマ公の碑

- NO28 平成12年、新春号(表紙…七福神の図)
(2000年)
- ・東京同窓会に臨んで
 - ・ご苦労様でした蒲原鉄道殿
 - ・蒲原鉄道の廃止に思う
 - ・蒲鉄の思い出(1)
 - ・元禄の豹、堀部安兵衛を読んで

- NO29 平成12年、大会号(表紙…愛宕山から)
(2000年)
- ・千代國一氏の歌集を読んで
 - ・一咲、賀先輩喜壽
 - ・懐旧の情新たな新発田、五泉、村松
 - ・旧陸軍墓地はどうなった
 - ・仲間意識と身内意識
 - ・蒲鉄の思い出(2)
 - ・蒲鉄、電車運賃の変遷

- NO30 平成13年、新春号(表紙…越後の民家)
(2001年)
- ・会報30号発行を祝う
 - ・続旧陸軍墓地はどうなった



第11回 松 五 会

同級会は、いつも青春がいっぱい!

「いざ集え。青春に返らむ」というのが我が『松五会』のモットーである。松高新制第五回卒業生から、その名称をとった。毎年、秋の吉日に、東京と新潟と交互で顔を会わせようという趣向をとっている。

2000年10月14日(土)、18時が迫ってくると、阿賀野川のほとりに建つ咲花温泉・柳水園が、いきなり賑わいをみせてきた。

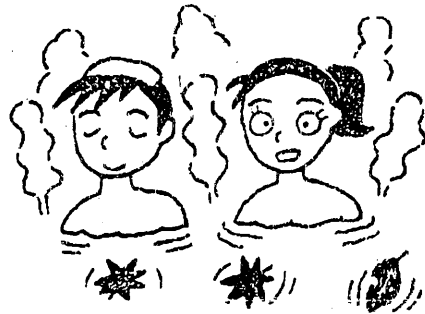
第11回目を迎えた、この年は新潟の番である。級友の村田久氏のご親戚が柳水園の経営者なので、ご好意に甘えて、松五会が一夜を借りきることになった。

筆者の例でいえば、13日(金)に東京を発って湯沢で一泊する。14日は新潟市を歩き鈍行で咲花駅へ向かった。めったにない、のんびり旅行であった。途中、新津駅から仲間が乗り込んできたので、もうその時から同級会がはじまってしまったようだ。

さて、当日の出席者は男性25名、女性10名である。飲んだ、語った、歌った。もう気分は高校生に戻っていた。頭髮の黒いのも、真っ白なもの、みな66歳なのだ。正直で、懐かしく、遠慮もないというのが同級会の素敵どころだと思う。

2001年の秋は、東京の番である。田舎に住む級友を、どうやって楽しませてあげようかと、在京の理事たちは、しきりに知恵をしぼっているところである。

(文責…雲村 俊愼)



昭和30年3月卒・3年3組 クラス会

◎我等が三年三組は、同期七クラスの中で一番まとまりが良く、他のクラスから羨ましがられているようです。

卒業後四十七年、今回で七回目の集いを、平成12年10月28日、五泉市の咲花温泉において17名の出席をえて開催いたしました。担任の長谷川先生は高齢のため前回は最後に遠慮され、また女性の参加者が少なくやや寂しい中、三年ぶりの再会に和気相合い、ゆっくり温泉に浸り、料理、地酒も格別で、歌い、駄弁り懐かしく旧交を温めることが出来、秋の一晩、天下大平!最高の楽しみ、喜びでした。

これからは、お互い健康第一、別れを惜しみつゝ、次回を三年後に決定いたしました。多数の参加をお願いいたします。 ・写真撮影と文・落合 博(高7)

◎上記、落合 博さんは、昨年、日本新協会主催の写真コンテストで“新潟県最優秀賞”を受章されました。

(前列、向かって右端)

深見洋子 記

歓迎村松高校 3年3組同級会様



心に蘇る 旧制村松中

…赤山会の絆は校歌・応援歌…

奈良 泰夫（旧中28）

校庭に隣り合わせた赤い土の丘。入学早々この赤山を背に、臥龍が丘に向かって校歌、応援歌を仕込まれ5年間の私の中学校生活がスタートした。

当時の赤山は小さいながらも存在感を持ち、なんとなく野口雨情の童謡「赤い靴」のイメージを重ねてみたくなるような愛らしさを備えていた。

昭和5年の中学校進学率は4%

旧制新潟県立村松中学校有志、赤山会の名に魅入られて初めて出席したのが、名古屋在勤中の昭和58年か。常連になってまだ8~9年だから会については知らぬことが多い。ただ感じてきたのは参集する人達は“並”ではない、ということ。それぞれが個性豊かな異色の存在なのである。

日本の教育改革（尾崎ムゲン著）によれば、昭和5年の旧制中学校（実業学校を除く）入学者は全国で7万5千人。村松中学20回卒業生の同年代は小学校卒業生が全国で184万人であったが進学率は僅か、4.09%である。入試の合格率は68%、旧制中学校の実体を示す数字であろう。水準は相当高い。そして戦争に生死をかけ、食料難、住宅難とたたかいながら東京で志を貫いてきた益荒男が赤山会同人なのだから“並”でないのは当然であろう。

春秋2回の年1回・春と改定

春の例会は4月7日、アルカディア市ヶ谷で開催した。五十嵐一郎事務局長（30回卒）の司会で、まず旧校歌斉唱。美声の伊藤達郎さん（84歳、20回卒）の指揮で「塵の巷を遠ざけて…」と正調。

赤山会の絆のそもそものは、この旧校歌と最後に合唱する「緑濃き…」「臥龍原頭…」「松城健児…」の応援歌である。敗戦は学制を根こそぎ変えた。旧制村松中学がなくなってから50余年を経過、今や知る人は少ない。旧制村松中学が蘇るのは、4つの歌を高らかに歌う赤山会同人の心の中だけになったのではないか。

春秋2回の例会は年1回・春とすることに改定した。明年は4月3日（水）とし、会場は今回と同じ。

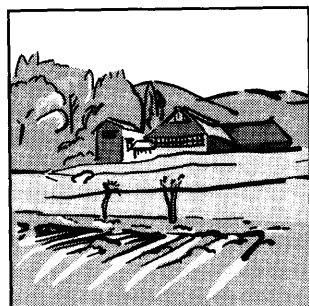
挨拶の吉田正平会長（25回卒）は陸上400mの日本のエース。戦争で中止された昭和15年の東京オリンピック出場に一番近い選手だった。前年の全国中等学校選手権では、200m・400m共に優勝した。現在も陸上界の重鎮で多忙。

奇書“金瓶梅”50分の名講義

卓話は日大名誉教授・坂井健一君（28回卒）の“金瓶梅講読余話”で約50分。この大長編ものは「中国・明時代の真髓をえぐった社会派小説」との解説だった。「これを読んで真似る者は禽獣」との戒告文が、本文の冒頭にある。

最高齢、87歳の市川薫平さんの乾杯で開宴するや、すぐに座は弾む。市川、伊藤両先輩が立上がって歌になる頃は混然一体。名講義の“余話”の余話も楽しく、3応援歌に声を張り上げ、3時間半の例会は終わった。

出席者の最年少は漢詩の遠藤順君（33回卒）の70歳で総員16名（夫人1名含む）。あと何年続くか。幕を引くまで旧校歌、応援歌を続けたい、赤山会婦人会の結成も悪くない……。



がき大将よ 出でよ！

東京同窓会長 佐伯 益一（旧中二十七回）

本年一月十一日付きで本部会報「松城」への原稿依頼の書面を頂いた。前の十七号で題材が与えられないのは困ると書いた。ので今度は、東京同窓会の近況と旧制中学通学時代の思い出を書けとの注文である。

東京同窓会についてはこれを略してMTDと称しているが「松城」前号の私の小論「人の心を掴め」の中で詳しく述べているので今更改めて紹介する必要も無いと思う故に今一度読み返して頂ければありがたいと思う。

東京の会報「臥龍が丘は緑なり」は年に二回発行しているが前年度からは部数を増やして会員以外にも発送している。これが頗る評判が良い。感想などの寄稿も多く頂く。創刊以来の会報をファイル綴じ込んでいると多くの会員からも聞くのは嬉しい事、その反面村松の方からは全然反応が無い、各支部長さんも同様ハガキ一枚も来ない。これは悲しい事。私の同期生で通信費の足しにでもと何がしかの金子を送ってくれる人が多いことも、また 嬉しい事であり感謝している次第である。

さて旧制中学時代の思い出であるが、これは、とても一頁や二頁で書き尽くせるものではない。従って注文が通学の思い出とあるのでそれに限って思い出すまゝに書く。衆知のとおり当時は五年制で私は昭和十二年の入学で同期は約百名で甲乙二組編成であり、多彩な人物が揃っていた。豪傑肌の者、面倒見の良い者、博学多識の者、（それが奇妙な物知り者）等々誠に多士才々で全校の中でも特異な学級であった。当時上級校が少なかったにも関わらず進学率も良かった。人知れず勉強していたらしい。同期生の半数近くは五泉を始め津川方面、遠くは新潟、新津方面からの電車、汽車通学であった。

当時私は冬の一時を除き殆ど五年間汽車通学で、鹿瀬から五泉迄は上り下りの列車の交換があったため、約五十分間、宿題や予習は汽車の中、暇な時は鹿瀬から馬下迄のトンネルの数や名前を調べた。今でも覚えているが防雪トンネルを含めて、みんなで二十四あった。今も変わらぬ筈である。入口には延長mも書いてある。最近復活した「S・L」を懐かしく思う。

五年生になると通学隊長で、登校時には列の先頭に立ち勝手気儘に選んだ道を歩く、墓地の中も、猫も通らぬような裏道も通った。皆はゾロゾロと後に従う。途中、乗馬で通勤中の将校に出会うと、足駄をガラガラ鳴らしながらの「かしら～右」校門に入れば、今度は奉安殿に対し「かしら～左」と何とせわしかったことか。気を使うこと夥しかったが、気分は部隊長気分。

ある時、五泉の駅で、多分三年生の頃か、津川方面の下級生が新津方面の上級生に殴られた事があった。

「よし、オレが話をつけてくる」と反対側のホームに駆け上り

り「なんで殴ったのか、理由は何だ」相手は私の一年上級、押し問答の末相手は急に逃げ出した。馬下駅寄りのホームの端まで追いつめたら「勘弁してくれ」と言われた。その後この人とは仲良くなったが、先の大戦で戦死されたと戦後に聞いた。同じ柔道部であった。

汽車に遅れたりするとよく下級生を引き連れて五泉駅近くの支那そば屋に行った。一杯十銭位だったか。

そして私はこっそりと茶碗で一杯飲む。言うところだぞと拳骨を翳し殴るまねをした。

珍しい事に女学生から付け文を貰ったことがある。多分交際してくれとの意であろう。然し私は片思い乍ら好きな人がいるので応ぜられないと答えた。後になって相手に恥をかかせたか、悲しい思いをさせたかと気になって仕方が無かったがチョッピリ残念な気もした。

——— 遠い思い出である。 ———

さて最後になったが、表題に掲げたとおり昨今は洞察力があり、人をうまく纏め、指導する人が政界、財界を問わず少なくなってきたのは如何なるわけか？

自分自身のことのみを考え、他の犠牲にもなろうとする根性が無くなったのか？ 子供の頃の腕白大将時代が楽しかった（今でも そうかも知れぬが）たとえ 子どもであっても集まればその力は大きいものとなる。

社会や学校での善意の「がき大将」の出現を期待してやまない。やれる時はやっておくものだ。

私が五年生の時が丁度創立三十周年の年であった。以来六十年、今年は創立九十周年の年。万感交々である
※この小論は3月発行の母校「松城」に掲載されたが「松城」が会員全員に行き渡らぬため多少手直しして紹介することにした。

ちょっと いい話

若い時に 父に言われたことがある。

名刺を作る時には自分の名前の上に絶対肩書きを載せるな。たとえ社長であろうと部課長であろうと、その役職に頭を押さえられてしまうからである。文字通り右肩につけるのが本当である。

だから「肩書き」と言うのだと。以来、私は忠実に今日まで頑なにそれを守り続けている。（伯）

その中の一ページ

世田谷区 八木 又一郎（高7回）

◎「臥龍原頭幾星霜、切磋琢磨の巧を経て……」高三年の昭和29年8月の夜、蒲原鉄道・村松駅のホームで、ハンドボール全国大会（インターハイ）出場のため運動部各部の代表が集まり、蛮声を張りあげ壮行会を行ってくれた。当時は各競技が、それぞれ全国大会を開催しており、ハンドボールは東京の駒沢競技場と大阪の藤井寺競技場で交互に行われていた。この時は大阪藤井寺への出発であった。

遠藤理先生の引率で選手15名が蒲鉄に乗り村松を離れた。新津から大阪行の夜行列車に乗り込んだ。直江津、富山を過ぎ、高岡駅に着いた時、ホームから吹奏楽が聞こえてきた。もう深夜である。50人ほどの吹奏楽部員が整列し、富山県代表の高岡高校ハンドボール部を送っているところであった。

うす暗く小さなホームでの蛮声（こちらの方が、心がこもっている）と、明るく広いホームでの吹奏楽、少なからずのカルチャーショックをうけたものである。

大阪での宿舎は、旧大阪球場の近くであった（これが後で尾を引くことになる）。宿に着いてすぐ、藤井寺競技場に行き軽く練習して戻り明日の試合にそなえた。

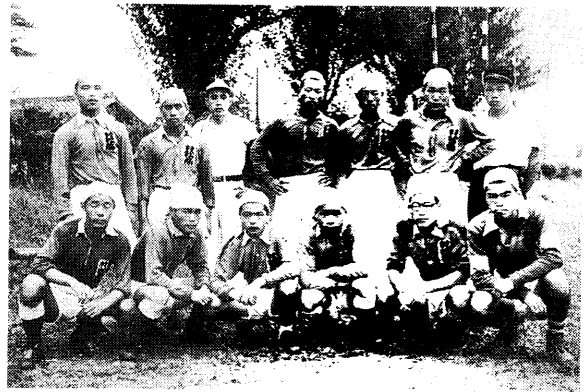
この夏で全国大会は三回目であったが、まだ一勝もしていない。「とにかく一勝したい」この気持に全員が燃えていた。初戦は秋田県代表との試合、前半は二点差で勝っていた。ハーフタイムの時、遠藤理先生が「今晚泊まる金を持って来てないが、勝ったら電報を打って送ってもらうか」とつぶやいておられた。しかし、惜しくも後半に逆転され一点差で負けてしまった。三年連続一回戦負けである。悔しかった。

負けたら夜行で帰ることになっていた。荷物をまとめ帰り支度を始めているうちに、誰かが「もう一泊したいなァ」といった。すると「ナイターを観たい」という者もでてきて、泊まりたいの声が全員で言い出した。そして「八木は主将なんだから先生に頼んできてくれ」と言い出す奴がいる。実は私も泊まりたい口である。

先生の部屋に行くと「バカヤロー、そんな金持って来てねえ」と、皆の部屋に来られた。さあ大変「泊まりましようよ」の大合唱である。「うるせい、風呂で八木と一緒に考える。八木！来い！」

眩しい大阪球場の照明、プロ野球をナイターで観戦するのは生まれて初めてである。試合に負けたものの、何か心の中で充実したものを感じながら大阪から帰った。

私たちは、良い思い出を胸に卒業したのである。が、後に知ったのであるが、遠藤先生は、あの今井先生にこっぴどく叱られ、校長先生にたっぷり油を絞られ大変な思いをされたとのことである。宿泊費は今井先生が払って下さったとも聞く。ほろ苦くも懐かしい思いがする。



第5回全国ハンドボール選手権大会
出場記念・村松高校ハンドボール部
（昭和29年8月、大阪藤井寺競技場）

ちょっと不思議な話

政治家、特に国会議員を志す人は、最後は大臣か総理大臣を目指すであろう。どん底から苦勞しながら這い上がってくる人ほど品格もあり人望もあるがなるべき人と、偶然になった人とは何処か違うところがある。一步間違うと、とんでもないことになる秘書あがり、二世、三世の国会議員は数多いが地盤看板だけが頼りであって鞆がない（世にこれを三バンという）dakara不祥事が続発する。

昔、井戸堀代議士と言う言葉があったが今は死語となった。みんな身銭を切ったからである。古い話藤山愛一郎氏などいい例である。私は選挙運動は就職運動だと解釈している。当選すればカネになるからである。そして最後には泥沼に落ち込み、検察の手にかかる者が出てくる。散々叩かれて辞任せざるを得ない人も居れば、頑として辞任勧告にも応じない人も居るし歳費も支払われている。不思議な話である。わが国には、見識もあり洞察力もある立派な人が多くいる筈だが何故か政界には出たがらない。ある程度は理解出来るのだが。（伯）

父が付けた犬の名前

伊藤 勇五（旧中33）

小学校2年の時、同級生の杉崎のところから牝の仔犬を貰えることになった。2年前、兄達の時は「犬はだめだ」と飼うことを承知しなかった父が「いいよ」と今度は簡単に許してくれた。私は仔犬の名前を“テル”にしようと思っていた。クラスで成績争いをしている、昭代（テルヨ）という女の子が好きだったので、同じ名前にしたかった。

仔犬を貰って帰った日、父に「可愛いじゃないか、名前は？」と聞かれ、「まだ無いから父さんがつけて」とつい言ってしまった。父は少し考えていたが「そうだ！“カメ”がいい、“カメ”にしろ」と言った。聞き違いかと思って問い直したが「そうだ！“カメ”だ」と言う。

その場にいた母と兄達も怪訝そうな顔で父の方を見たが、みんな黙っていた。変な名前でいや嫌だったが今更そうとは言えなくて、結局、気に入らないまま“カメ”で納得するより仕方なかった。

この日から、私と“カメ”との長い付き合いが始まった。これにまつわる思い出、特に“カメ”が牝犬だったために起きた悲喜こもごもの出来事などは、ここでは省かせて頂く。“カメ”が我が家へ来て7年経った、昭和18年、私が旧制村松中学校三年の時、“カメ”の姿が忽然と消えてしまった。八方手をつくして懸命に探したが行方は分からなかった。その年の秋、私は甲種飛行予科練習生（予科練）として海軍に入隊し“カメ”探しはここで終わった。

時は巡って平成10年、私は70歳になったのを機に娘と孫のいる、大和市に移り住んだ。昨年の暮のこと、正月も近いので理髪に行った。予約の時間より早かったので棚から週刊誌を取ってページを捲っていたら「雑学クイズ…犬編…」の見出しがあり、記事の中に“カメ”という字が目に入った。

初めから読むと……犬が人間と暮らし始めたのは、実に、2万5千年も前の石器時代といわれています……の書き出しで、クイズが7問出題されていた。その一問目に……明治時代といえば文明開化、西洋文化が津波の様に押し寄せて来た時代です。その時、文化や人間と一緒に多くの洋犬も紹介されました。日本人にとって犬といえば、秋田犬の様に耳がピンと立った単色の犬が当り前でした。ところが、外国から来た犬は耳がダランと下っていたり、体に斑点があったり、日本の犬とはかなり見た目が違っていました。犬ではなく別の生き物だと思った人もいた程です。そのためか当時の人達は、ポインターやセッターなどの洋犬をまとめて“カメ”と呼んで区別していました。この呼び方は昭和の初めまで通用していました。何故“カメ”と呼んだのでしょうか？……という問題であった。

私は問題の答えを考えようとも思わず、すぐに回答欄を探した。次ページの左隅に回答が逆さまに載っていた。答えは外国人が犬を呼ぶ時の、COME（カム）が“カメ”に聞こえたから……であった。

私が貰って来た犬に“カメ”という名前を付けた父はその訳を話さなかったし、私や家の者も聞かなかった。それにしても何故“カメ”などという突飛な名前を付けたんだろう。確か、あの時は「そうだ“カメ”がいい、“カメ”にしろ！」と云った。単なる思いつきとは考えられない。このクイズの“カメ”という呼び方を知っていたのだろうか。父に聞いていたら果たして何と答えたのだろうか。“カメ”を思い出しながら父が懐しかった。

ちょっと優しい話

此所二年ばかり新潟に狂っている友人がいる。彼女は神戸生れの京都育ち、新潟より余程、都会で育った筈。聞いてみると、新潟は食べ物、海、山、川と豊富で驚くほど美味しいと云う。旅先での、ちょっとした言葉の遣り取りの中に、京都人からは及びもつかない優しさと親切さが感じられ、心を打つと云う。

先日、スペイン旅行ツアーに、新潟人四人で参加した。総勢二十名の中に困った男性が一人。誰も彼を相手にしない。見兼ねたのは、我々新潟三人衆。中でも一番面倒を見たのは、斉藤和男さんでした。

新潟人は、やっぱり“超優しい”のです。（深見）

ちょっと いい話

新潟へ向かう新幹線の中、隣のご婦人に「煙草を吸ってもいいですか」と訊いたら「ど～ぞ、でも煙を出さないで」と言われた。そんな器用なことなんか出来るものか。別に禁煙車でもないのにといいながらデッキで吸って来た。席へ戻ると「冗談でしたのに」と笑った。それで機嫌が直った。

確かにドアを開けて車内に入ると煙草の煙の匂いが鼻を突いてきて嫌になるくらい。二時間位は我慢すべきだなと思った。その婦人は、和服の良く似合う程々の美人で、尻を右ひだりと振りながら長岡で降りて行った。歳がいもなくホンワカした気分になった。サービスでもしてくれたのかな？（伯）

訃報

五十嵐 健 氏 (高6回)

昨年秋より、入院療養中のところ 肝不全のため
平成13年3月7日、ご逝去されました
謹んでご冥福をお祈りいたします 合掌

市町村合併・市名変更

- ① 新潟県西蒲原郡黒埼町は1月、新潟市に吸収合併
- ② 「西東京市」東京都保谷市と田無市が合併、1月21日、新しい市名になる
- ③ 「潮来市」茨城県潮来町と牛堀町が合併、4月1日市制施行
- ④ 埼玉県浦和市、大宮市、与野市の三市が合併、5月1日「さいたま市」誕生

大江戸線全線開通

平成12年12月12日、都営地下鉄・大江戸線が全線開通した。全長40.7km、37駅、総工費は1兆3940億円。

埼玉高速鉄道・開業

3月28日、営団地下鉄南北線・赤羽岩淵駅から埼玉高速鉄道・浦和美園駅間、14.6kmが開業。

りんかい線・延伸開業

東京臨海高速鉄道・りんかい線は3月31日、東京テレポート駅から天王洲アイル駅まで延伸開業。
2002年には、JR山手線・大崎駅まで延びる予定

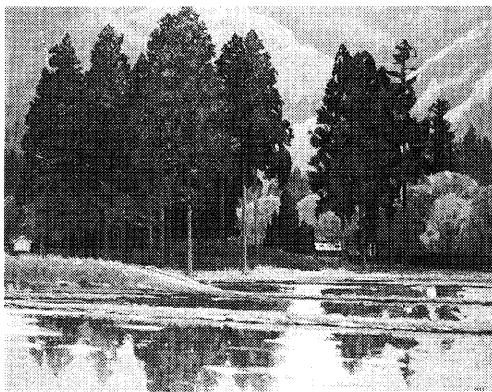
U.S.J オープン

アメリカ映画のテーマパーク、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが、3月31日、大阪市此花区にオープン
総事業費1700億円

石川雄二氏 {個展} 近づく

◎ さきの新春号でご案内いたしました、高校2回卒・石川雄二氏(一水会々友)の、初の東京個展が近づきました。同窓の皆様こそってご来場下さいますよう、ご案内いたします。(右下に会場案内図)

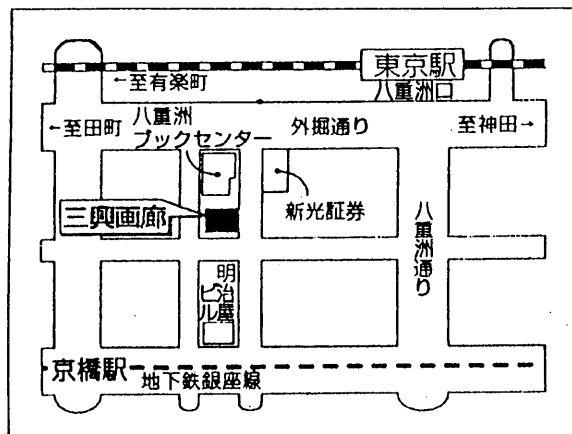
☆ 下記の作品は、平成11年(1999)第61回・一水会展に出展されたものです。



…魚沼の初夏…

…開催要項…

- 開催日 平成13年9月18日(火)～23(日)
(11:00～18:00 最終日は17:00まで)
- 場 所 「三興画廊」
・中央区八重洲2-5-7
電話03-3276-0789
・JR東京駅八重洲南口より徒歩2分
・地下鉄銀座線京橋駅7番口より徒歩2分



(連絡先)

石川雄二
☎ 0250-43-0651

杵渕政海(東京世話人)
☎ 03-3996-4815

村松高校東京同窓会・役員（敬称略）

（平成12年度～13年度）

会 長 佐伯 益一（旧中27）

副 会 長 伊藤 勇五（旧中33） 岡本 和子（旧女25）

{ 幹 事 } ◎印…常任幹事 ☆印…新任

◎武藤 三郎（旧中26）	◎齊藤 和男（旧中33）	☆熊倉 富次（高9）	◎大橋 貞夫（高10）
芳賀 健一（旧中33）	小林 早月（旧女25）	小島 典子（高10）	真水 道子（高10）
佐藤 玲子（旧女25）	鈴木 節子（旧女25）	◎田代 信雄（高11）	近藤 燦子（高12）
篠川 恒夫（高2）	青木 猛（高2）	徳永 道子（高12）	中島 和子（高12）
渡辺 八郎（高3）	亀山 知明（高3）	渡辺 厚子（高12）	☆山田 俊治（高14）
◎鈴木多喜男（高4）	金子 鶴男（高5）	☆森山 征夫（高14）	☆齊藤 弘子（高14）
廣田 達衛（高5）	新井 康夫（高5）	笠原 静夫（高18）	☆齊藤 正義（高18）
向山 律子（高5）	◎佐久間英輔（高6）	☆佐々木秀和（高18）	高岡 英治（高18）
◎沢出 趙允（高6）	◎八木又一郎（高7）	☆安達 繁子（高20）	
◎深見 洋子（高7）	◎片柳 ムツ（高8）		
◎山崎 輝雄（高8）	◎塚田 勝（高8）		
木村 孝子（高8）	山西愈佐子（高8）		
◎石黒 四郎（高9）	間藤 謙一（高9）		

編集後記

東京同窓会会員の皆様をはじめ、各方面の方々のご協力により、東京同窓会報「臥龍が丘は緑なり」第三十一号を発行することが出来ました。

昭和六十二年六月発行の創刊号で佐伯会長（当時は支部長）が「初の試みとして会報を発行することになった。年何回出せるかわからぬが、とにかく一回きりでは終わらせたくない。永続出来るように同窓各位のご協力をお願いする次第である」と記述されており、それ以来十四年にわたり年二回のペースで発行を続け、二十一世紀まで継続してこれたことは皆々様のご協力ご支援ご鞭撻の賜と厚く御礼申し上げます。

創刊号から三十号まで編集のご指導ご尽力を頂いた、精文社・佐野さんが昨年末会社を退職されました。長年にわたり本当にありがとうございました。

編集委員も変わらず十数年間携わって来ましたが、長い間続けるとマンネリ化等の弊害を懸念しております。会報作成に興味をお持ちの方に参加頂きたく、よろしく願っています。

次回の三十二号作成中に母校創立九十周年を迎えます。皆様の村松時代の思い出などお寄せ頂ければ、一層の紙面充実をはかれると思います。ご協力のほど何卒、よろしく願っています。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。編集委員会…

平成13年6月 第31号

表紙の題名・題字は、佐伯益一氏 書（旧中27）

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

事務局 〒157-0061 東京世田谷区北鳥山 3-13-15-104（八木又一郎 方）

電話・FAX 番号 03-3307-1048



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	新 校 歌
1. 塵の巷を遠ざけて 雲たち迷う白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流れにも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰か心ぞや 5. それ英雄も人傑も 人の子吾等がたぐいなり 嗚呼松城の健男児 勇みて立つべし諸共に	1. 愛宕の山のむら松の 常緑色の常磐なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雲にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. 其の名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂うごと 気高き姿保たばや	相馬御風 作詞 中山晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしまめ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなぎれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生氣湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
応 援 歌	応 援 歌	応 援 歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高なる血潮 たたえつつ春の日めぐる 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て はなぐれないの香に匂う 誉れは高き松城の 健児が胸に血やおどる 2. 我等がえらぶますらおの 誉れは海の湧くがごと 望みは雲のゆくがごと 月の桂をなゆずりそ 栄えある名をぞとこしえ に	1. 松城健児六百が 祖国のために剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権をゆずる事なかれ 我等六百ここにあり 3. 今壮快の晴れいくさ 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権をゆずることなかれ 我等六百ここにあり